令和元年度特別企画展 首里城正殿跡 出出品展



2020年2月18日 (火) > 5月10日 (日)

沖縄県立埋蔵文化財センター

目 次

こす	いさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
1.	首里城の発掘調査略史・・・・・・・・・・・・・・・ 2
	首里城内及び周辺の発掘調査地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2.	発掘された正殿跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
3.	首里城正殿跡の出土品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
コラ	ム 首里城正殿出土の兜の図上復元について ・・・・・・・・・・14
琉球	王国・首里城関係年表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
引用	・参考文献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

【凡例】

- 1.本図録は、令和元年度特別企画展『首里城正殿跡出土品展』(開催期間:令和2年 2月18日~5月10日)の展示を補完するものとして、編集・作成しました。
- 2. 企画及び原稿執筆は、金城亀信・金城貴子・玉城 綾・荻堂匠美・大城妃左緒が行い、與那覇 栞・亀島英莉が編集しました。
- 3. 文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合は、著作権(発行)者の承諾を得ずとも、本図録を複製して利用できます。 ただし、利用にあたっては出典を明記してください。
- 4. 発掘調査報告書に記載されている資料名と本図録に記載されている資料名が一部 異なるものが存在します。これは報告書刊行後、新たな研究成果によって詳細が判 明したことによるものです。

ごあいさつ

沖縄県立埋蔵文化財センターでは開所した平成 12 (2000) 年以来、国指定重要文化 財公開「首里城京の内跡出土品展」を毎年度開催し、多くの県民の方々に期間限定で公 開してきました。

今年度も京の内跡出土品展を開催する事で計画を進めてまいりましたが、その最中、 令和元(2019)年10月31日未明に首里城内で発生した火災によって正殿を含む建物 が消失しました。正殿が焼け落ちていく姿は、県民をはじめ世界中の人々に衝撃を与え、 同時に私たちは大切な財産を失いました。

しかしながら、復元前の発掘調査によって検出された遺構は現地に残されており、膨大な量の出土品も当センターで保管されています。

首里城は沖縄の歴史と文化の象徴であると同時に、琉球文化の粋を集めた県民の心のよりどころともなっていたことから、深い喪失感にある県民の多くが早期の首里城復元を望んでいます。

このような状況に鑑み、開催予定であった「首里城京の内跡出土品展」を急遽変更し、 特別企画展「首里城正殿跡出土品展」として開催することとしました。

首里城正殿跡の発掘調査は、昭和60(1985)年から2カ年間にわたって沖縄県教育委員会が実施しました。

当センターの収蔵庫には、現在、県内各地から出土した遺物が収納コンテナで 27,454 箱分保管されていますが、その約3割は首里城関係の遺物が占めています。首里城正殿跡から出土した遺物に限って見ても、その量は1,404 箱分で、首里城関係の遺物(8,637 箱分)の約16%となり、他の地区の出土量を圧倒していることが分かります。

首里城正殿跡からは、琉球王国が15世紀を中心とした大交易時代に海外交易で入手した中国・東南アジア、朝鮮・本土産の陶磁器などの他に、平成4(1992)年11月に首里城正殿が復元・公開された際、正殿の装飾や細部の復元にあたり基礎資料となったものも出土しています。

今回、正殿跡の発掘調査で得られた遺物に焦点をあてた特別企画展を開催することにより、観覧者の皆様に貴重な文化財が残されていることを知っていただき、琉球王国時代の息吹を感じてもらう機会となれば幸いです。

令和2 (2020) 年2月18日

沖縄県立埋蔵文化財センター 所長 城田 久嗣

1、首里城の発掘調査略史

首里城で初めて実施された発掘調査は、昭和11 (1936) 年 12 月から翌年の1 月までの期間で伊東忠太・鎌倉芳太郎の両氏による城内の4箇所〔①西ノアザナ東南側下文字瓦層、②京ノ内西北側(西)、③京ノ内西北側下(東)、④正殿前〕の調査です。その後、大正14 (1925) 年に國宝建造物沖縄神社拝殿(正殿)として指定を受けていた正殿を含む建造物群は、昭和20 (1945) 年のアジア・太平洋戦争末期に起きた沖縄戦で焼失し、城壁の大半が破壊されました。戦後、昭和25 (1950) 年に琉球大学が創設され、昭和57 (1982) 年までの32 年間キャンパスとして利用されます。

首里城跡の復元整備は、沖縄が本土復帰した昭和 47(1972)年より沖縄県教育委員会が戦災文化財等復元整備事業(その後、首里城城郭等復元整備事業に改称)として歓会門及び周辺城壁の整備から始まり、最後は平成 13(2001)年度に実施された右掖門北側城郭の復元整備で完了します。これによって首里城外郭と外郭城門を含む 1,070 mが完成します。この復元整備事業の中で戦後初めて、城内の歓会門・久慶門内郭地区の発掘調査が昭和 59(1984)年度から始まります。

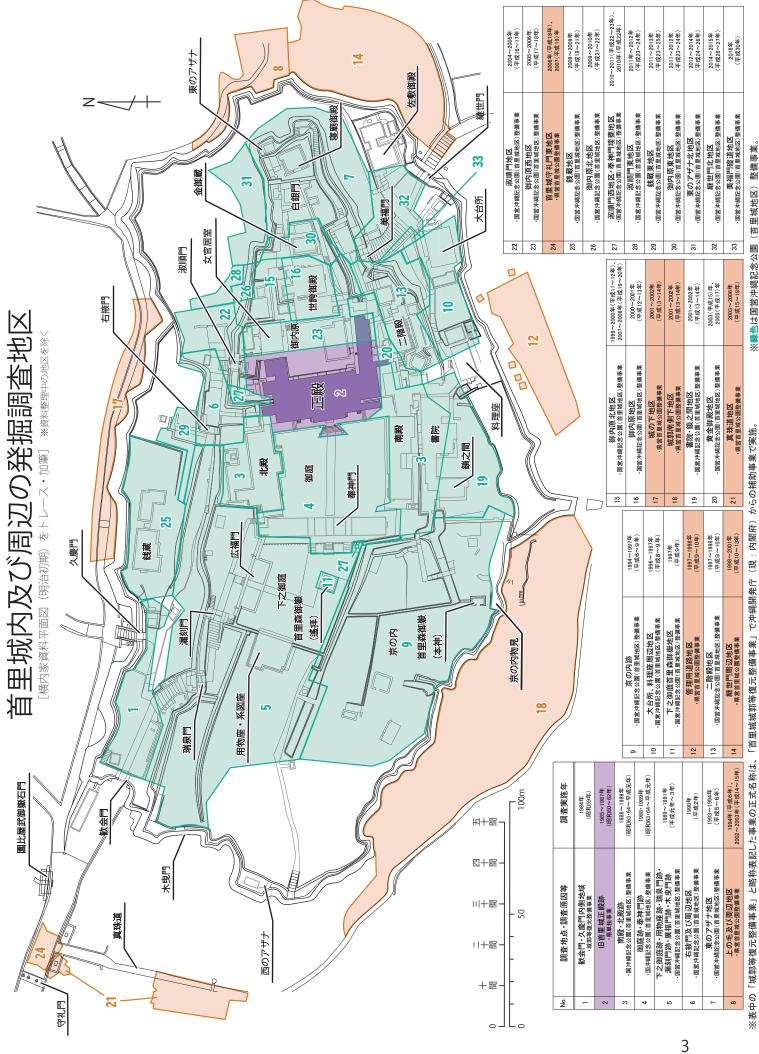
首里城内郭の本格的な発掘調査は、沖縄県教育委員会が昭和 60 (1985) 年度から 2 カ年間にわたって、県単独事業で実施した首里城正殿跡の位置及び遺構確認調査です。

首里城の復元は県民の悲願であったことなども踏まえ、昭和61 (1986) 年度に首里城内郭の約4haを沖縄県の本土復帰を記念して国営公園区域「都市公園整備事業(国営沖縄記念公園首里城地区)」として復元整備をおこなうことが閣議決定されます。

内郭の復元整備に伴う遺 構確認調査は、内閣府 沖縄 総合事務局 国営沖縄記念公 園事務所から沖縄県教育委 員会が委託を受けて昭和63 (1988) 年の南殿跡・北殿跡 地区の発掘調査から始まり、 平成30(2018)年度の美福 門磴道地区の発掘調査で終了 します。なお、首里城外郭外 側の約 18ha については、県 営首里城公園整備事業として 平成3(1991)年度から現 在まで、復元整備に伴う発掘 調査を沖縄県土木建築部から の分任事業で継続的に実施し ています。



正殿基壇跡の検出状況 ※ 例から ⑥ 方向への拡張が確認された



※首里城城郭外側の整備は、県営首里城公園整備事業で沖縄県土木建築部からの委託を受けて復元整備に伴う発掘調査を実施。

※オレンジ色は県営首里城公園整備事業。 薄紫色は県単独事業。

2、桑掘された正殿跡

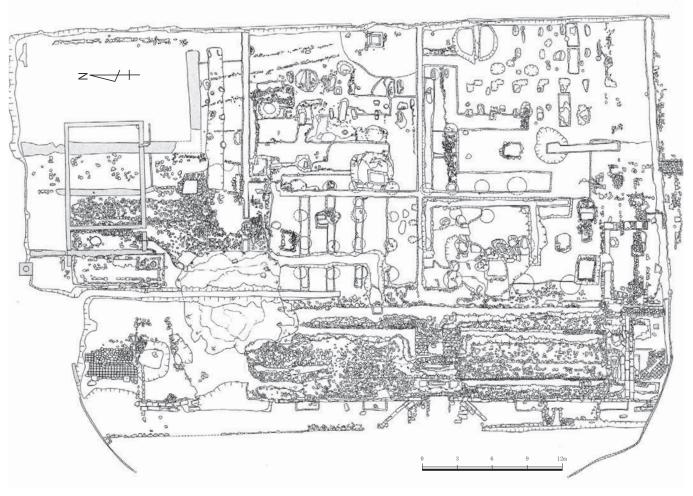
アジア・太平洋戦争の沖縄戦で多くの建造物群が焼失・破壊された首里城跡では、昭和 45 (1970) 年、当時の琉球政府文化財保護委員会が首里城跡及び周辺文化財の復元整備計画を策定したことを契機に、沖縄が本土復帰した昭和 47 (1972) 年より戦災文化財復元整備事業として、城壁や城門の復元整備が始まります。さらには、首里城の跡地に戦後創設された琉球大学の移転に伴い、その跡地利用として首里城一帯の公園化が有力となったことで、これまでの城壁や城門に加えて、正殿を含む城郭内側区域の復元整備を望む気運が高まります。

そのような状況を受けて、沖縄県では昭和 59(1984)年度に『首里城公園基本計画』を策定し、 首里城と一体となる周辺文化財も含めた歴史的な風致を構成する区域の約 18ha を都市計画公園の範囲とし、復元整備の方針を示しました。

その翌年、沖縄県教育委員会では正殿の復元に必要な基礎資料を得ることを目的として、昭和 60 (1985) 年度から 2 カ年間にわたって正殿跡の遺構確認調査を実施しました。

延べ400人の県民が参加した発掘調査の結果、正殿建物の土台となる基壇跡や土留めの石列、方形石組遺構(生活ゴミ廃棄場)のほか、近代に構築された厠(トイレ)跡などが確認されました。中でも基壇跡の発見は、調査目的であった正殿の位置を正確に把握できる重要な成果となりました。あわせて、正殿は建て替えの時代を経ながら徐々に西側へと拡張していく様相も明らかになりました。

この正殿基壇の保存状況は、昭和6~8(1931~1933)年実施の正殿の修理工事時に作成された「國宝建造物沖縄神社拝殿図」と、戦前の正殿修理を行った文部省文部技師の阪谷良之進製図の「旧首里城図」との整合性が確認されたことなどから、正殿建物の復元が可能となりました。



遺構平面図

3、首里城正殿跡の出土品

昭和60(1985)年度から2カ年間にわたって沖縄県教育委員会が実施した正殿跡の発掘調査では、 様々な遺構以外にも膨大な量の遺物が出土しました。

その他にも、食料となった貝類(チョウセンサザエ、ヤコウガイなど)や脊椎動物(魚類:ミナミクロダイ、ハマフエフキなど。動物:ニワトリ、ジュゴン、ヤギ、ウシ、ブタなど)の骨も出土しており、いかに正殿跡から多種多様の出土品があったかを窺い知ることができます。

なお、平成4(1992)年11月に復元・公開された正殿の装飾や細部の復元に関しては、龍頭棟飾りの鉄製の龍の髭をはじめ、軒先丸瓦、役瓦、欄干の羽目板や親柱、銅製装飾金具、塼、礎石など、発掘調査によって得られた出土品が基礎資料となりました。

これらの収納用コンテナで 1,404 箱を数える大量の正殿跡の出土品は、埋蔵文化財センターの収蔵庫で適切に保管されています。



首里城正殿跡の発掘調査の様子(西側より)

中国產陶磁器



中国産青磁 碗・皿



中国産白磁 左:八角杯、右:小碗(「大明成化年製」銘入り)



中国産白磁 皿



中国産青花碗・皿



中国産青花 碗



中国産青花 左右:瓶、中央:水注

中国産、東南アジア産陶磁器



中国産青花 左:梅瓶、右:大型壺



中国産 左:色絵皿、中央:色絵碗、右:三彩水注



中国産 左:黒釉碗、右:瑠璃釉碗



タイ産 土器・陶磁器



ベトナム産 左上:青磁碗、右上:青花碗、 左下:青花水注、右下:鉄絵水注

朝鲜產、本土產陶磁器



朝鮮産青磁 右下以外:碗・皿 右下:瓶



本土産陶器 碗 (肥前産)



本土産磁器 右下以外:碗・皿 右下:瓶 (肥前産)



本土産陶器 壺 (薩摩産)

カムイヤキ、沖縄産陶器



カムィヤキ 壺 (鹿児島県徳之島産)



初期沖縄産無釉陶器 有文角瓶

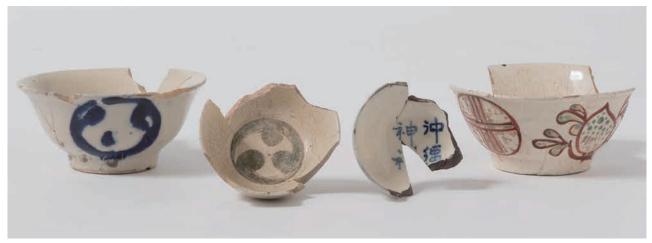


初期沖縄産無釉陶器 鉢・壺(右上:貝目痕のある鉢)



沖縄産無釉陶器 大甕 (四爪の龍文貼付け)

仲绳產陶器、琉球銭



沖縄産施釉陶器 碗・小碗(左から2番目:琉球王国の紋章、左から3番目:「沖縄神社」銘入り)



沖縄産施釉陶器 左:酒注、中央上:瓶、中央下:急須の蓋、右2点:灯明具



陶質土器 鍋・鍋蓋



琉球銭 上段:「世高通寶」(1461 年初鋳)

下段:「大世通寶」(1454年初鋳)

金属製品



梵鐘(相国寺(1454~1460年頃建立)の「天上人間」銘入り)右下: 拓本



左・中央:切羽、右:刀の鍔



金属製品 左上:香炉、左下:耳掻き、中央:印鑑、 右:有文花瓶の頸部か締め金具



鉄製武具 上段:鎖帷子、下段:鎧の小札



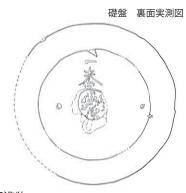
拡大した印鑑 右下:印影

調度品·建築関係



金属製品 飾り金具





石造物

左上:礎石(八角柱の跡あり)

右下:礎盤(向拝柱の跡、裏面に「一番」

刻名入り)



金属製品 左上: 大龍柱の接続用鎹、下段: 正殿大棟の龍頭棟飾の龍髭 石造物 上段中央・右、中段: 龍柱破片

建築関係



高麗系平・軒平瓦 (上段左:「癸酉年高麗瓦匠造」銘入り平瓦)



明朝系役瓦 上・中段・下段左: 雲形 下段中央2点: 草花形、下段右: 龍頭の鶏冠か



上段:明朝系軒丸瓦下段:大和系軒丸瓦



右下以外:明朝系軒平瓦 右下:大和系軒平瓦



欄干

コラム 首里城正殿出土の兜の図上復元について

首里城京の内倉庫跡から兜鉢の矧板や立物などの破片が出土しました。これにより 1450 年前後に使用された兜の復元(図1)ができました。その後、首里城正殿跡からも京の内兜の復元図と同様の兜鉢に小札が取り付けられたタイプ(写真1)も出土しています。その他に兜鉢に鎖帷子が取り付けられたタイプ(写真2)があり、このタイプは県内の遺跡から初めて確認されています。このように正殿跡からは二種類の兜が出土しています。そこで正殿跡から出土した写真2の兜鉢に取り付けられた鎖帷子(以下、鎖帷子タイプ)を図上で復元をしました(図2)。なお、兜鉢正面にある立物(三) 製形台と鍬形)は京の内倉庫跡から出土した立物を使用しました。復元に際しては、幾つかの問題がありました。一つ目は鎖帷子タイプに吹返があったのかどうか、二つ目が鎖帷子が真下に垂れ下がった状態では兜が被りにくく鎖帷子を広げないと兜が被れないという不便さが考えられました。この問題を解決するヒントは、国指定重要文化財(芸能)の組踊に観られる兜を布頭巾で表現した姿でした。鎖帷子の内側と外側を布や薄皮で包み込んで鎖帷子を隠すものが、鎖帷子タイプの兜本来の形であったものとして理解をしました。

結論として、正殿跡出土の兜で鎖帷子タイプのものは本来、布や薄皮で覆われていたものとして考えて図上で復元を試みました。鎖帷子タイプに吹返を取り付けるとすれば漆で鎖帷子の両端を固めながら徐々に折り曲げて吹返を造ることもできると考えましたが、正殿跡から出土した兜(鎖帷子タイプ)は潰れや変形などで吹返の存在は確認できませんでした。なお、図2の復元図は、図2Aが鎖帷子の内側に無地黄地の布を描きました。図2Bは内側以外に外側の鎖帷子を全て布などで描くと、鎖帷子の取り付状態や構造が判らなくなるので、鎖帷子の端にのみ図柄(琉球王国の紋章「左御紋(左三つ巴)」に、長寿の象徴とされる「菊」と吉祥文の「唐草文」を組み合わせました。)のある布を描くことで布張りの一部を表現し、図柄入りの布の範囲を縁取って復元図としました。なお、復元図は金城監修のもとで大城友理華さんが手掛けました。



写真 1 正殿跡出土の兜鉢矧板と小札



写真 2 正殿跡出土の兜鉢に装着された鎖帷子



図 1 京の内跡出土の復元された兜及び立物 (『首里城跡―京の内跡発掘調査報告書(II)―』2009 年 3 月より複写)

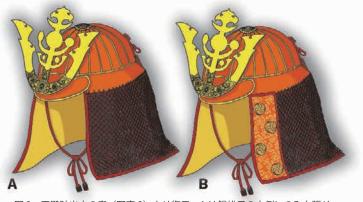


図 2 正殿跡出土の兜(写真 2)より復元。A は鎖帷子の内側にのみ布張り。 B は A に外側(鎖帷子の構造)の一部に布張り。

琉球王国·首里城関係年表①

時何	七区	∑分	西暦	日本元号	中国元号	王統	事 項	日本·世界
ens.	E	Į	607年	推古15	大業 3		隋の煬帝、朱寛を流求に遣わす(隋書)。	小野妹子を隋に派遣。法隆寺建立。
飛鳥	均		618年	26	武徳 1			隋滅亡し、唐興る(~907年)。
平安	E 4-	寺 七	753年	勝宝 5	天宝12		唐僧鑑真、阿児奈波島に漂着する(唐大和上東征伝)。	
時代	往	헌	918年	延暦18				高麗王朝興る(918~1392年)。
14	其	月	960年	天徳 4	建隆 1			趙匡胤(太祖)、宋を建国(~1127年)。
			1192年	建久 3				鎌倉幕府成立(1192~1333年)。
鎌			1260年	文応 1	景定 1		英祖王即位。	
倉時			1271年	文永 8	至元 8 10	12	「於五左古國五尼生」約 1 10の古國五制 16 (1159年 11909年 118 118 118 118 118 118 118 118 118 11	蒙古、国号を元とする(1271~1368年)。
代			1273年 1314年	10 正和 3	延祐 1		「癸酉年高麗瓦匠造」銘入りの高麗瓦製作(1153年・1393年説あり)。 玉城王即位、この頃から三山対立。	
10			1333年	元弘 3	元統 1	玉城20	エグスエが区、この気がラニ曲の上。	鎌倉幕府滅亡。
			1338年	延元 3	至元 4	西威 2		室町幕府開く(1338年~1573年)。
			1350年	正平 5		察度 1	察度王即位(浦添按司から王となり首里へ)。	タイ、アユタヤ朝成立(1350~1767年)。
		Ξ	1368年	23		19		明興る(1368~1644年)。 明の海禁政策。
	グ	ılı	1372年	文中1	5	23	明の太祖、楊載を遣わし招諭、中山王察度、明へ進貢。 中山王察度、高世層理を建造・遊観。中国閩人三十六姓来琉と伝わ	
室		_	1392年	明徳3	25	43	中山土奈及、局世暦理を 建道· 遊観。 中国国人二十八姓米城と伝47 る。	李氏朝鮮成立(1392~1910年)。
		時	1404年	応永11	永楽 2	武寧 9		明との勘合貿易開始。
町			1406年	13	4	尚思紹 1	尚巴志、中山王武寧を滅ぼす。第一尚氏王統始まる。この頃、首里城	
n.L		代	1416年	23	14		瑞泉門(1406〜1469年)が創建。 尚巴志、北山王攀安知を滅ぼす。	
時	ス		1410年	34	宣徳 2		同口心、北山工拳女別を做はり。 龍潭を堀り安国山を築く、安国山樹華木之記碑建立。	
代			1428年	正長1	3	7	建国門(中山門)を創建。	
10			1429年	永享1	4		中山王尚巴志、山南王他魯毎を滅ぼし三山を統一。	
		第	1430年	2	5	9	この頃、首里城美福門(1422~1439年)が創建。中山王、明に三山統 一を告げ勅語賜う。明の使者を琉球に遣わし、中山王に尚姓を賜う。	
	ク	_	1453年	享徳 2	景泰 4	尚余福 4	一を告け射語場う。明の便者を琉球に追わし、中山土に同姓を賜う。 王位継承争い「志魯・布里の乱」起こる。首里城焼失。	
戦		尚	1454年	3		尚泰久1	琉球銭貨、「大世通寶」が初めて鋳造。尚泰久即位の1454年~56年	
		氏王	-				の間に板葺き屋根の首里城正殿を再建。	
国		山朝	1458年 1459年	長禄 2	天順 2		護佐丸・阿麻和利の乱。「万国津梁の鐘」を首里城正殿にかける。 王府倉庫(京の内倉庫跡)を失火で消失する『明實錄』。	
時	時		1461年	寛正 2	5		エハ月庫(ボジバ1月庫所)を大火 (相大りの1円貝球1)。 琉球銭貨、「世高通寶」が初めて鋳造。	
		代	1469年	文明 1	成化 5	1 110 -	首里城で反乱が起こり、第一尚氏王統滅びる。	
代			1470年	2	6	尚円 1	金丸、王位に就き尚円と号し、第二尚氏王統始まる。琉球銭貨、「金	
		第	1470-				圓通寶」が初めて鋳造。 光空は工作に対えば、光声に作む数で	
•	代		1477年	9	13		尚宣威王位に就くが、尚真に位を譲る。 この頃(1477~1526年)、歓会門、久慶門、白銀門建立。	
安	17		1494年	明応3	弘治 7		円覚寺建立(1494年竣工)。	
		尚	1500年	9	13		八重山、オヤケアカハチの乱。	
土		氏	1501年	文亀 1	14	25	王家の陵墓、玉陵を築く。この頃(1506~1521年)、北殿が創建。	
111 6		^	1502年	2	15	26	円覚寺前に圓鑑池を造り、弁財天堂を建立し、朝鮮王から贈られた方 冊蔵経を納める。	
桃		前	1506年	永正3	正徳 1	30	久米島、具志川按司を征討。正徳年間に首里城北殿が創建。	
ш		BIJ	1508年	5	3	32	首里城正殿に石造欄干造営(中国的様式)、北殿創建、一対の大龍	
		期	1519年	16	14	43	柱(中国産貴石:輝緑石)を設置。 園比屋武御嶽石門・弁ヶ嶽の石門創建。	
時		J		大永 2		46	真珠道起点の石門東側に国王頌徳碑、西側に真珠湊碑を建立。この	
1.12		Ξ	1522年		新坪 I		頃(1527~1555年)、龍樋、首里門(のちの守礼門)を創建。	
代		朝	1528年 1544年	享禄 1 天文13	23		待賢門(のちの守礼門)建立。 首里城東南側の城壁工事始める。	
						20	自主城東南側が城壁工事炉のる。 首里城東南側城壁工事完成し、城壁が二重となる。継世門を築き、添	
		時	1546年	15			継御門之北之碑文・同南の碑文を建立。	
		代	1573年 1579年	天正 1	万暦 1		尚永王即位。 首里門に「守礼之邦」の扁額を掲げる。	室町幕府滅亡。
			1603年	慶長 8	万暦31	/ 尚寧15	日生 バミリルベガ ツ無領を拘りる。	徳川家康、江戸幕府を開く。
			1609年	24	37		薩摩軍(兵3000)侵攻し、尚寧王薩摩へ連行(~1611年帰国)。	幕府、島津家久に琉球を賜う。
			1616年	元和 2	44	28	薩摩より朝鮮陶工一六、一官、三官来琉し、陶法を伝授(一六は帰化	満州王朝興る。
		第一	1628年	寛永5	崇禎 1		し、湧田村で作陶)。この頃、首里城南殿(1621~1627年)創建。 首里城南殿創建。	
江		二尚	1639年	見水5 16			自里 田里 和 田	
		氏	1644年	正保 1	順治 1		各所に遠見番(烽火の制)を設置。	明王朝滅亡、清が興る。
=	近	(後	1660年	万治3			首里城、火災で炎上し正殿その他が全焼する。	
,-	7/1	期	1667年	寛文7	康熙 6		義保為宣(蘇巨昌)、首里城大龍柱を作成。	
		○ 王	1670年	10 ==== 1			首里城正殿再建工事により瓦葺きに改める。	
時		土朝	1681年	天和 1	20		中山門が瓦葺に改修される。 平田典通、首里城正殿の五彩彫甍(龍頭彫甍)および御冠の玉、唐	
	世	時	1682年	2	21	14	大装用の堤鳴玉を製作。三窯場を牧志村壺屋の陶窯に統合。	
代		代	1704年	宝永 1			平田典通、百浦添(首里城正殿)の補修のため、彫甍と龍瓦を製作。	
16		近	1709年	正徳 2	48 51		首里城正殿・北殿・南殿焼失。1715年までに再建。 首里城再建が本格化し、1715年に完了する。	
		世琉	1712年 1729年	上偲 2 享保14	雍正 7		自生	
		球	1736年	元文1	乾隆 1		首里城北殿老朽化により改修。	
			1739年	4	4	27	首里城漏刻門前に日時計を設置し看守役人を置く。	
			1753年	宝暦 3	乾隆18	尚穆 2	首里城寝廟殿・世添御殿創建される。	

琉球王国·首里城関係年表②

時何	時代区分 西		西暦	日本元号	中国元号	王統	事 項	日本・世界
		<i>^</i> ~~	1754年	宝暦 4	乾隆19	尚穆 3	中国の制に倣い、首里城奉神門を改修。	
江		第一	1760年	10	25		大地震があり、首里城城壁57ヶ所が損壊。	
		一尚	1768年	明和 5	33		地震の被害にあった首里城正殿を重修。	
戸		氏	1771年	91416	36		明和の大津波(宮古・八重山で遭難者11,861人)。	
		~	1773年	安永 2	38		首里城北殿改修。	
時	近	後期	1806年	文化 3	. — - — - 1		首里城広福門改修。	
		79J 	1811年	8	16		首里城正殿重修。	イギリス、ジャワ占領(~1816年)。
代		王	1046年	EL //2 0	道光26	尚育12	首里城正殿重修。首里城外郭の歓会門、久慶門、継世門を二重扉と	
		朝	1846年	弘化 3	坦兀20	回 頁 12	9 බං	
	世	時代	1851年	嘉永 4	咸豊 1	尚泰 4	異国人(英国人等)が滞在につき、城の防備を固めるため城壁の積み	太平天国の乱(~1864年)。
					9		目に石灰を塗り固める。 米海軍提督ペリー、サスケハナ号以下三隻で来琉し首里城訪問。	
		近	1853年 1868年	明治 1	3 同治 7	21	木冊単佐省ペリー、ガスケハナ 安以下二隻で米坑し目里城訪问。	ロシア使節プチャーチン長崎来航。 王政復古、明治と改元。
		世	1872年	971a 1 5	11		琉球藩設置。政府、太陽暦の使用、24時間制の採用を命ずる。	工以復古、明石と以几。
		琉球					尚泰王、首里城明け渡し。熊本鎮台分遣隊首里城駐留。沖縄県誕	
		坏	1879年	12	5	32	生。	
			1894年	27	光緒20	明治27	清国貿易に関する船舶の那覇港への出入及び貨物積卸しを許可。	日清戦争始まる。
明治			1897年	30	23		沖縄師範学校、首里城から当蔵に移転。	
時			1904年	37	30		沖縄師範学校全焼し、首里城を仮校舎として使用。	日露戦争始まる。
代			1908年	41	34		首里城中山門、老朽のため52円余で売却撤去。	
			1909年	42	宣統 1		首里城、首里区に払い下げられる。	
			1912年	明治45	民国 1		首里城内に第一小学校ができ、広福門、奉神門撤去。	中華民国成立。
			10115	大正 1		大正 1	県立第二中学校、首里城の仮校舎より嘉手納に移転。	宣統帝退位し、清朝滅亡。
ᅕ		沖	1914年	3	3	3	View Lab. View Library And View Library Librar	第一次世界大戦始まる(~1918年)。
正			1923年	12	12	12	首里市会、首里城正殿の解体決議。首里城伊東忠太・鎌倉芳太郎来 県、首里城の調査研究後に文部省に保存要請。	関東大震災。
時	近	縄	10015	10	1.0	10		
代	代		1924年	13	13		首里城内に沖縄神社創建し、首里城正殿を拝殿とする。 首里城正殿、国宝に指定。国勢調査(人口557,993人)。	モンゴル人民共和国成立。
		県	1925年	昭和 3	14 17		国 主 城 上 版 、 国 玉 に 指 足 。 国 労 調 査 (入 口 55 7,993 入) 。 国 庫 補 助 に より 首 里 城 正 殿 の 解 体 修 理 工 事 着 手 。	
	戦		1928年	暗和る	17	昭和 3	国単備切により自主城正殿の解体修理工事看子。 首里城正殿解体修理工事竣工。首里城の歓会門・瑞泉門・白銀門・	
	前	時	1933年	8	22	8	自主城正殿解体修理工事竣工。自主城の歓云門・福泉門・日銀門・ 守礼門、国宝に指定。	日本、国際連盟より脱退。
	$\overline{}$		1934年	9	23	Q	首里城北殿の修理始まる(~1936年完成)。	
		代	100+-	3	20	3	首里城内に郷土博物館開館。守礼門修理着工。伊東忠太・鎌倉芳太	
			1936年	11	25	11	即、首里城跡·浦添城跡·照屋城跡·南山城跡の発掘調査(~1937年)。	
			1937年	12	26	12	守礼門修理竣工(守礼門の「昭和12年」銘入り鬼板瓦が製作)。	蘆溝橋事件(日中戦争勃発)。
			1938年	13	27		首里城南殿(郷土博物館別館)修築工事開始。	<u> </u>
昭			1939年	14	28		首里城南殿修築工事竣工。弁ヶ嶽石門、国宝指定。	
гн			1941年	16	30	16		第二次世界大戦始まる(~1945)。
			1944年	19	33	19	首里城地下に第32軍司令部壕が構築される。	
和			1945年	20	34	20	首里城正殿を含む建造物群や石積み等、沖縄戦で焼失・崩壊。	広島・長崎に原爆投下。ポツダム宣言受諾。
	۰۲	ア	1946年	21	35	21	GHQ、日本と南西諸島を行政分離宣言。米軍政府、戦前の市町村長	日本国憲法公布。
	近						を原則に市町村長任命。	サンフランシスコ対日講和条約、日米安全
時	什	'n	1951年	26	40	26	首里城跡に琉球大学開学。	保障条約調印
	16	統	1957年	32	46	32	園比屋武御嶽石門を復元する。	NIN-SIAWA MARI I-O
		治時	1958年	33	47	33	守礼門を復元する。	東京タワー完工。関門トンネル開通。
代		代	1967年	42	56	42	首里城跡を含む戦災文化財の復元整備計画立案。	
							沖縄本土復帰(沖縄県設置)。首里城歓会門復元整備着手(~2001	
			1972年	47	61	47	年度までに外郭石積みと各門が完成)。首里城跡が国指定史跡とな	
			1000 -				る。 ************************************	
			1982年	57	71 73		首里城跡より琉球大学西原町へ移転。	
			1984年 1985年	59 60	73		沖縄県が「首里城公園基本計画」策定。 首里城正殿跡の発掘調査に着手(~1986年度まで実施)。	
			1980#	60		60	自里城正殿跡の発掘調査に看手(~1986年度まで美施)。 首里城内郭(約4ha)を「国営沖縄記念公園首里城地区」とし、沖縄復	
			1986年	61	75	61	目里城内郭(利4na)を「国宮神縄に恋公園目里城地区」とし、神縄復 帰記念事業の一環で復元整備をおこなうことで閣議決定。	
			1988年	63	77	63	北殿・南殿・御庭地区の発掘調査が開始。	
	戦	沖	1989年	平成 1	78		首里城正殿及び南殿・番所、北殿、奉神門復元工事に着手。	
	7X		1992年	4	81		首里城正殿、北殿、南殿ほか復元整備完了し一般公開。	
		縄	1997年	9	86		首里城下之御庭の首里森御嶽復元竣工。	
平			1999年	11	88		首里城二階殿復元竣工(平成10年度より工事着手)。	
		県	1				沖縄サミット開催。首里城跡、園比屋武御嶽石門を含む9資産(玉陵、	
成		時	2000年	12	89	12	今帰仁城跡、座喜味城跡、勝連城跡、中城城跡、識名園、斎場御嶽)	
			0000-		0.5		がユネスコの世界遺産に登録。首里城系図座・用物座復元竣工。	
時	後	代	2003年	15	92	15	首里城京の内復元竣工(平成13年度より工事着手)。 2008年: 首里城書院・鎖之間復元竣工(平成15年度: 外構整備、平	
							2008年: 自皇城書院・頻之间復元竣工(平成15年度:外傳整備、平 成16年度:建築工事着手)。2010年7月23日付けで首里城書院・鎖	
代			S	5	5	5	之間庭園が国の名勝指定。2011年:首里城淑順門の整備。2014年	
							:首里城黄金御殿・寄満・近習詰所・奥書院の復元整備。2016年:	
							首里城奥書院庭園の整備。首里城城郭(西)エリアの整備。	
			2018年	30	107	30	首里城正殿外部の朱漆全面塗り直し終了(2016年度~3年間)	
令				n			1/22: 首里城正殿東側の「御内原エリア(世誇殿・女官居室・湯屋)」・	
和時			2019年	平成31	108		「東のアザナエリア(金蔵跡・寝廟殿)」の復元と面整備(約1ha)完了。	
一 代			•	令和1		∵和 1	10/31未明: 正殿、北殿、南殿・番所、書院・鎖之間、黄金御殿、二階御殿・奥書院が火災により消失。	
10							PERM // PIDEM // /// IES/IB//0	

【引用・参考文献】

沖縄開発庁沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所 1994 『国営沖縄記念公園首甲城地区建設の記録【平成の復元】』

沖縄県教育委員会 1983『重新校正 中山世鑑』

沖縄県教育委員会1986『旧首里城正殿跡位置確認調査報告書』

沖縄県教育委員会 1988 『首甲城 歓会門・久慶門内側地域の復元整備事業にかかる遺構調査』

沖縄県教育委員会 1992『首里城跡-首里城正殿跡の遺構調査』

沖縄県教育委員会 1998『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(I)-』

沖縄県教育委員会 1998『首里城跡 御庭跡・奉神門跡の遺構調査報告』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2009『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅱ)-』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2013『首里城跡-淑順門西地区・奉神門埋甕地区発掘調査報告書ー』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2005『首里城跡-書院・鎖之間地区発掘調査報告書-』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2005『首里城跡-二階殿地区発掘調査報告書-』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2006『首里城跡-淑順門地区発掘調査報告書-』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2006 『真珠道跡-首里城跡真珠道地区発掘調査報告書(I)-』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2007『首里城跡-御内原西地区発掘調査報告書-』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2007『首里城跡-黄金御殿地区発掘調査報告書-』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2009『首里城跡・真珠道跡―首里城跡守礼門東側地区・真珠道跡起点及び周辺地区発掘調査報告書ー』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2010『首里城跡 - 御内原北地区発掘調査報告書(I) - 』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2016『首里城跡-銭蔵東地区発掘調査報告書-』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2016『首里城跡-正殿地区発掘調査報告書-』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2017『首里城跡 - 御内原東地区発掘調査報告書 - 』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2018『首里城跡 - 継世門北地区発掘調査報告書 - 』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2019『発掘調査速報展 2019』

沖縄大百科事典刊行事務局 1983『沖縄大百科事典』別巻 沖縄タイムス社

沖縄タイムス社 2019『報道写真集 首里城』

一般財団法人沖縄美ら島財団 2019『首里城が楽しく学べる 首里城物語』首里城公園管理部

鎌倉芳太郎 1975『セレベス 沖縄発掘古陶瓷』国書刊行会

新星出版株式会社 2019『オキナワグラフ』12 月号

当真嗣一・上原 靜 1987「首里城正殿跡の発掘調査」『紀要』第4号 沖縄県教育庁文化課

琉球新報社 2019『甦れ! 首里城 報道写真と記事でたどる歴史』

沖縄タイムス「首里城正殿外部塗り直しを終了/3年間実施」29頁2018年12月7日

沖縄タイムス「首里城 王女の居室復元 / 「御内原エリア」など公開へ」27頁 2019年1月22日

沖縄タイムス「世界遺産の遺構損傷か/首里城正殿火災/がれき入り込む」・「鎖之間庭園の被害も調査」 1 頁 2019 年 11 月 6 日

「沖縄の歴史」・「琉球王国とは」2007(財)海洋博覧会記念公園管理財団 首里城公園管理センターホームページ

琉球新報「首里城の朱/鮮やかに/朱塗り直し3年|26頁2018年12月8日

琉球新報「首里城大奥、復元完了/物見台も」29頁2019年1月22日

琉球新報「首里城7棟焼失/貴重文化財も被害か」1頁2019年11月1日

琉球新報「首里城焼失/電気系統から出火か/県警火元、正殿北東と断定」・「遺構大きな損傷なし」1頁 2019年11月6日

令和元年度 特別企画展「首里城正殿跡出土品展」

発行日 令和 2(2020) 年 2 月 18 日

編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒 903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7

TEL 098-835-8751 FAX 098-835-8754

【休所日】毎週月曜日、国民の祝日、2月25日(火)、5月7日(木)(但し、こどもの日は開所)

【開所時間】9:00~17:00(入所は16:30まで) 【入場・観覧料】無料

◎ ◎ 文化講座 ◎ ◎

日時 2020年2月29日(土)

13:30~15:30(13:00 開場)

場所 当センター 研修室

参加費·予約不要 先着 100 名

演題『琉球文化の象徴、首里城正殿 - 首里城正殿跡の発掘調査 - 』

講師 上原 靜 氏 (沖縄国際大学 総合文化学部教授)

◎ ジギャラリートーク ② ②

日時 2020年3月14日(土)・4月18日(土)

5月2日(土) 各回14:00~14:30

当時の 発掘担当者が

語る!

場所 当センター 企画展示室 参加費·予約不要 先着各20名 講師 当センター 調査班専門員

